

「はは。悪かったよ。お前が可愛くてつい」

あの後海の中でエッチもして、艶肌になった二人はコテージで優雅な夜を過ごしていた。波の上に浮かぶそのプライベートヴィラの中は、どこも空調が整い、涼やか。客室の中央には、南国の夜に相応しい巨大な天蓋付きベッドが鎮座している。外から吹き込む生暖かい夜風が、薄い純白のレースを静かに揺らしていた。室内の明かりは極限まで落とされ、波のさざめきだけが静かに鼓膜を揺らす。涼しい室温とは裏腹に、室内の空気はふたりが放つ濃厚な体温によって、じつとりと熱を帯びていく。

南国風のエキゾチックなカーテンからは、怪しげな重なる影がうつすらと透けていた。

「それに…コレ本当にアメニティのルームウェア…？絶対…嘘だろ…♡♡♡」

海辺のノリノリエッチからクールダウンした愛斗は、寝室でも同様に全身にキスマークまみれのカラダを隠しきれていなかった♡

その身体に纏わされているのは、周が用意させた絢爛な踊り子の衣装。

極薄のシルクで仕立てられた、透けるエメラルドグリーンの薄布。

腰回りには幾重もの金の鈴とコインが縫い付けられており、愛斗が微かに身じろぎをするたびに、しゃらり、しゃらりと涼しげで、それでいて酷く扇情的な音で肉欲を掻き立てる。胸上脇から首にかけて、ベルトのような布が巻き付けられており、そこからまた装飾が垂れ下がっている。

オスならチクビは恥ずかしくないと言いたげに、胸はすべてが丸出し。股間にはたれ布が。しかしお尻はプリン♡とむき出し。

頭隠して尻隠さずどころか。

鎖骨隠して乳隠さず。

おちんぼ隠しておまんこ隠さずのドスケベ踊り子服。

「ん？何がだ」

「ね、ねえ…マヂで…いい加減にしないと俺もキレるってば…♡♡！」

「南国の踊り子服だな。サプライズでこういった伝統を楽しみながら、就寝できるだなん

て。贅沢な体験だろ？マナ。」

周は上裸のまま、ベッドの端にどっしりと腰を下ろしている。

まるで絵画のような圧倒的な攻め体躯。

胸板はボディオイルでスケベにテカリ、逆三角形の逞しい背中には、典型的な和彫りがみっちり描かれている。

「それにしても、マナは何を着せても可愛い。時折イベントでしてたコスプレで何回犯し抜く妄想をしたか。」

「変態！」

変態的な口ぶりはさておき。

周は簡素な腰布だけしか着こまずとも、肉体だけで王者の風貌を漂わせる。

天蓋ベッドの中央に、ただ胡坐をかいて横目で愛斗を見下ろしているだけなのに。

圧倒的雄性を感じざるを得ないのだ。

それに比べ：愛斗は綺麗な見目も、色気づいたボディも恰好も助長して、王族に従ずる娼

婦みたいだ。

「愛斗はお母さんに似て、可愛くて、美人だからか？こういうスケベな衣装も着こなせる」
「い、今すけべって！ソウイウために用意したんだろ！！！！！」

ナンバーワンホストとして、あまたの女子を泣かせ、メロつかせ、追い詰め、男の頂点に座っていた愛斗だったのに。

熱いまなざしを向けられ、情けなさに八の字眉になり身をひこうとしたところ、
ツツウ……と、顎をなぞられる。

唇を頬に寄せる周は、男ですら見惚れる造形の美丈夫。

分厚い手のひらが髪を撫でまわし、口内を俺様に吸い攻める。

愛斗はこうやって愛される度に、お腹の奥が素直にもうずうずするようになっていた。

……だけど天狗な愛斗は向こう見ずのあまのじゃく。

男として純粹に周の男らしさを認め、敗北しけしまいそうになるのがなんだかむしやくしや
気に入らなくて。

溺愛から容赦されていることを忘れて。

「フン…周さんのほか…俺の魅力に敗北してばっかの、雑魚ちんぽのくせに…」

週の股間に尻をグリっ♡♡♡♡と押し付け、生意気に啖呵を切ってしまった。

「おっ♡♡……オッ♡♡……オッフ♡♡……！オッ♡♡……オッ♡♡……オッ♡♡……
 オッ♡♡……おんヅ♡♡……！……おんヅ♡♡……！……おんヅ♡♡……！……おんヅ
 ヅ♡♡……！おんヅ♡♡おんつっつ♡♡♡♡♡♡……！！……」
 ギシッ！♡ギシッ！♡ギシッ！♡ギシッ！♡ギシッ！♡パンッ……！……パ
 ンっ……！！……パンっ……！！……パンッ……！！……パンっ……！！……パ

周は上等なベットのスプリングすらも悲鳴をあげるような凄絶ピストンを繰り返す。

愛斗を巨軀に隠すように覆いかぶさり、のしかかり、ロックするように、種付けプレスを繰り返す。

先ほどの交わりの精液がまだナカに残っているからと、最初から緩み切ったオス子宮を容赦なく殴りつける。

愛斗は舌を出して顎を反り上げ、ほぼ白目になって気絶の汚喘ぎを放つ。

「オオン♡♡♡!!!オツツ♡♡♡おお~~~~♡♡♡!!!」

裏表にまみれた無敵のホスト面なんかない。ただのメスマン顔をさらけ出す愛斗に、ますます周は興奮を滾らせ、白い首に噛みついた。

どちゅツツツ♡♡♡!!!ドスツツ♡♡♡!!!ドスツツ♡♡♡!!!ドスツツ♡♡♡!!!

♡♡♡!!!どちゅ♡♡♡ドスツツ♡♡♡!!!!!!ドス♡♡♡!!!!!!ドス♡♡♡!!!!!!

「はうあああつツツツ!!!おおオオツツ♡♡♡♡♡♡んぐうツツ!!!オツツ♡♡♡

♡!!!オツ♡♡♡オツ♡♡♡あああんツツ:!!!♡♡♡オツツ♡♡♡!!!オツツ♡♡♡

オツ♡♡♡!ひどい♡♡♡ンおづ♡♡♡あああ~~~~♡♡♡はげしい♡♡♡こわれるううう

うつつ!!!♡♡♡♡♡♡」

パチュ♡パチュ♡パチュ♡ぱちゅん♡ぱちゅん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡パン♡パン♡

